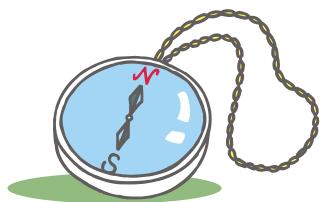


羅針盤

第 3 号 令和7年4月21日(月)



◆ 「認め合う」

今年度の入学式で、新入生の皆さんにお話した充実した学校生活を送るために大切にしてほしいことの二つ目は、「認め合う」ということです。たくさんの人との「出会い」が待っている場所、それが中学校です。先生や友だちとの出会いを通じて、一人ひとりが、それぞれに、ものの見方や考え方方に「違い」があることに気づいてほしいと思います。たくさんの「出会い」の中から、様々な考え方の違いを知ることで、自分自身の持つ視点や考え方方が、大きく広がっていくはずです。人はそれぞれに「違い」があるからこそ、素晴らしい、また、その「違い」を認め合える関係づくりを積み重ねていくことで、「人」として成長していくものと考えます。ただ、残念なことではありますが、世の中の社会状況を見てみると、争いごとが絶えないと言わざるを得ないでしょう。争いごとが増える大きな原因として、お互いの立場や考え方を認め合うこともなく、自分の要求を最優先して相手に自分の考えを押しつけていることの他ならないでしょう。現代社会では、この「認め合う」といったことが難しい状況にあります。自分が相手にしてほしいことと、相手が自分にしてしまうことの不一致をどのように解消していくべきなのか。相手を否定したり、指図したり、責めたり、あるいは、相手から否定されたり、指図されたり、責められたり、これでは何の解決にもいたらないことでしょう。「相手の考え方を尊重する」といった視点から物事を見つめなおすと解決策が見つかるかもしれません。「自分の視点」では正しいと考えていたことも、相手が選択した方法が正しい結果と成りうる場合があるかもしれません。「どうしても間違っている」としか考えられない時でも、相手の考え方を寛容に受けとめることが大切な場面もたくさんあります。間違った考え方のことで失敗をしたときにこそ、手をさしのべて理解を示すことが、真の意味での「認め合う」ことに繋がるのではないか。優しい心や思いやりの心で人の関わりを構築していくことで、互いに違いを認め合い、協力し合い、人として高めあっていける関係性を築きあげていけるものだと思います。



◆ 「場を清め」

校訓にある「場を清め」とは、どういったことを意味しているのでしょうか。主に掃除をするといったことを意味してはいますが、単に掃除を行うといったことだけではありません。相手に気持ちよく過ごしてもらうための行為であること、そして、自分の心を磨き、広く、深く、豊かにしていくことにつながっていなければ意味のないことであり、他者を敬うことや奉仕の心を培っていくことへと結びついて、相手からの信用や信頼が増していくことに、真の意味があるべきと考えられます。

掃除を行うことで、多くの「気づき」があり、謙虚になれる心や、感動する心、感謝の心が芽生えることへつながっていくと考えられるからです。日ごろから、整理整頓を心掛け、嫌な顔をすることもなく懸命に掃除に取り組んでいる人の姿からは、清々しさといったものが感じ取れるのではないでしょうか。まずは自分の身の回りから「場を清める」ことができる人であってほしいと願っています。

